

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和2年度 学校報 第18号 令和2年11月10日

発行責任者：瑞浪北中学校校長

担当者：瑞浪北中学校教頭



<合言葉> クリエイティブ瑞浪北中 2nd year
—学校の特長を確かなものにする年—

日常の一コマや一つの失敗の中にも

校長



左の写真は、北棟二階の廊下の光景です。窓際に置かれているのは、三年生の美術学習「半立体アートパネル」の材料です。彼らが今取り組んでいるこの学習では、パネルから飛び出す形で一人一人のテーマを表現します。三年生の卒業制作ともいべき作品で、生徒たちの若々しい着眼や発想が楽しめます。私は完成を楽しみにしています。

材料は生徒一人ひとりが準備します。立体で表現するために材料もかさばるものが多く、その保管にも工夫が必要です。本校では、写真のように廊下に整然と並べて保管しています。

ここに本校のすばらしさがあります。何気ない学校風景の一コマですが、これが瑞浪北中の誇れる事実です。これを読んでくださる方の多くは、廊下に整然と並べられている点が、そのすばらしさだと思われたのではないのでしょうか。もちろん、それはすばらしいことです。学校経営の重点の一つに「環境づくり」を掲げた私としては、美しく並べて保管してあることは大変うれしい事実です。しかし、今回私がスポットを当てたい「すばらしさ」は、それではありません。

私が伝えたい「瑞浪北中のすばらしさ」とは、だれもが通る廊下にパネルや材料を無防備に並べておいても、だれひとりとして触ったり汚したり傷つけたりすることがないということです。今は材料段階のものが多いようですが、これから制作が進むにつれて、興味関心を引く形やデザインがはっきりしてきて興味を引くようになります。置かれた作品の前を通る者にとっては魅力いっぱいの作品が並びます。「触ってみたい」「どのように作られているか確かめたい」という気もちが生まれて当然です。

しかし、実際に完成に近づいても、汚されたり壊されたりすることはありません。昨年度はそうでした。今年度もそれが継続しています。

生徒たちが不安定なときには、こうはいきません。ものが壊れたり傷ついたりします。掲示物や作品へのいたずらも増えます。学校とは無縁のゴミが校内のあちらこちらで見つかります。校舎内や教室内の落書きや汚れがひどくなります。……このような傾向が見られるときの学校は黄信号。放っておけば、大きな声や奇声が学校中に響くようになります。ルールやマナーを顧みない言動が横行します。そして、やがてはありとあらゆるところに一日中鍵をかけなければならない状態になるでしょう。そういう時代が過去にありました。

そう考えると、廊下に制作途中の作品を並べて保管できることがどれだけすばらしいことであり、誇れる事実であるということがわかります。瑞浪北中の生徒が、人（制作者）を大切に、どのように行動すべきかを無意識のうちに判断している証（あかし）だと言えるでしょう。

学校は、安心して生活や学習に取り組める場所であればなりません。仲間が作り上げた作品を大切に、丁寧に扱わなければなりません。勇気を出して発言した仲間を温かく受け止め、賛成であっても反対であっても一つの考え方として認めなければなりません。失敗や誤解をした仲間に寄り添い、励ましたり指摘したりして共に高まる方向に導かなければなりません。今の瑞浪北中はそれらができる学校であり、生徒たちの優しさや素直さが作り出している結果だと私は考えています。

生徒たちの姿に関わって、「瑞浪北中のすばらしさ」がもう一つあります。それは、生徒たちが実に誠実であるということです。

今年度もいろいろなものが壊れました。ものが壊れることは、もちろんいただけません。しかし、そこは「子ども」から「大人」への過渡期である中学生。ついつい目先のおもしろさに心を奪われたり、調子に乗って度を超したりしてしまうことが往々にしてあるものです。そういう経験をして、自分の軽率さや不注意にブレーキがかけられるようになっていきます。

瑞浪北中の生徒は、ものを壊してしまったときに正直に認めます。「叱られるのはいやだ」「黙っていればわからない」という思いから黙っていてもおかしくない年頃にもかかわらず、自分の行いを謙虚に振り返り、やってしまったことを素直に認め反省する……これができる北中の生徒はすばらしいと私は常々感心しています。こういう生徒たちの姿を目の当たりにすると、破損に対するショックよりも、望ましい方に成長している喜びを感じます。破損を報告に来た職員には、「指導する前に（正直に失敗を認めた生徒を）褒めるように」と、私はいつも言うようにしています。

人は自分かわいさから、よく無関係を装ったり他に責任転嫁したりするものです。自分の非を認め、それを踏み台にしてよりよい自分に成長していく……これが失敗を通しての成長ですし、成長途中の中学生には大切な経験です。大きな行事が中止や変更になって、生徒たちの成長を存分に発信できない今年度ですが、日常の何気ない一コマや一つの失敗の中にも、生徒たちの成長を垣間見ることができると言えますね。

11/5 2年職業講話



コロナの影響で職場体験が実施できなかった今年度。その代替として、様々な職業に就く方々を講師として13名お招きし、2年生を対象にして「職業講話」を開催しました。

生徒たちは自分の興味関心に合わせて受講し、熱心に耳を傾けていました。

生徒たちも、1年後には自分の進路について深く考えるべき時が来ます。進路を考えることは、自分の生き方を考えることです。今回のような学習を通じ、生徒たちが望ましい職業観や勤労観を身に付けられるよう願っています。

11/6 3年が白川郷と高山に行ってきました。

コロナの影響で実施できなかった3年生の修学旅行。その代替として、今回、白川郷と高山を訪れる日帰り旅行を実施しました。

生徒たちは、特に「時間行動」に意識して取り組みました。旅行の中では、時間を守るための生徒の主体的な行動が随所にみられました。

例年とは大きく違った3年生の宿泊体験学習でしたが、中学校生活の楽しい思い出の一つになったことでしょう。

瑞浪市美術展 表彰者一覧

【優秀賞】

1年	A・K	デザイン「自然物からの構成」
1年	N・M	書写「大洋」
2年	K・R	風景画
2年	Y・Y	書写「幸せ実感」
3年	W・M	スクラッチボード
3年	O・I	書写「国際理解」

【優良賞】

1年	I・R	デザイン「自然物からの構成」
1年	S・S	デザイン「自然物からの構成」
1年	O・H	書写「大洋」
2年	M・Y	風景画
2年	I・S	風景画
2年	O・M	書写「幸せ実感」
3年	D・T	スクラッチボード
3年	K・K	スクラッチボード
3年	F・H	書写「人権意識」
3年	I・R	書写「国際理解」

おめでとう!

